

日本画専攻 3 ポリシー

ディプロマ・ポリシー

■ 人材育成目標

日本画専攻では、古典研究を踏まえ、多様な価値観に基づく発想力を育み、現代作家として制作活動を行っていくことが出来る人材の育成を目標にしています。

■ 卒業までに身につけるべき資質・能力

- ・創作・研究活動を継続するために必要な実技能力
- ・多様な価値観に基づく発想力
- ・社会に対して新たな視点からの提案をし、実現ができる能力

■ 学位の授与方針と評価方法

最終年次の「卒業制作」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を与えます。

- ・所定の在学期間の確認、必要単位修得の確認
- ・卒業制作の評価・・・4年担当教員を中心として、6名の専任教員全員で卒業制作作品（150号）の審査を行い、意見を総合して採点し評価を決定します。

カリキュラム・ポリシー

■ 教育課程の編成方針

日本画の基礎実技と、専門性の高い技法や知識を幅広く習得し、独自性に富んだ自己表現の探求ができるように、習熟度を段階的に上げていくようにカリキュラムを編成しています。

■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

- ・1.2年次は日本画における創作の基礎を学びます。同時に技法材料の実習とともに古典絵画模写を取り入れ、基盤的知識を身につけます。
- ・3年次 古美術研究旅行や2年次より更に発展させた絹本模写を組み込みます。
- ・4年次 大作を制作し、独創性を追及します。

■ 教育課程の評価方針・方法

- ・各課題は担当教員を中心に、複数の教員による作品講評と制作過程、出席日数、学習態度を総合して評価します。
- ・その他の授業科目については、各科目の担当教員がシラバスに定めた方法により評価します。

アドミッション・ポリシー

■ 求める人物像

- ・観察によって発見したよこびを表現することに、強い意欲をもっている人
- ・自分の可能性を信じ、目標に向かって粘り強く取り組める人
- ・時代やジャンルを問わず、幅広い芸術表現に興味がある人
- ・新たな発想と表現力を身につけ、社会で活かしたいと思っている人

■ 入学前に身につけてほしい学習成果

- ・観察力と描写力（デッサン、着彩）

■ 入学試験の基本的な方針・考え方

受験生の能力を適切に評価できるよう、大学入試センター試験による学力と、石膏デッサンと着彩による二種類の実技試験を行います。

【一般入学試験】

- ・一次試験では、石膏デッサンの実技試験の得点と、学科（大学入試センター試験）の合算により合否を判定します。
- ・二次試験では、着彩による実技試験の得点によって、最終合格判定を行います。

モチーフは年度によって変更します。大学入試センター試験や一次試験の得点は加算されません。